

- 検査・・・ソナゾイド™ (2007ー)：1,094 件
EOB-MRI (2008ー)：2,348 件.
- 治療・・・IVR 件数 (2002ー)：2,039 件 RFA
治療件数 (2002ー)：374 件 ※4
- 肝癌治療成績・・・(手術, 穿刺, IVR, 化学療法を含めて)：2000 年以前 n = 264, MST = 7months, 2001 年以降 n = 583, MST = 25.3months ※5
- ※1・・・各核酸アナログでの累積発癌率は追跡調査施行し, 別機会に改めて報告する.
- ※2・・・SVR 判定用紙回収内
- ※3・・・診断名が単一の記載のみ
- ※4・・・医事科にて入院算定した症例のみ
- ※5・・・提示した基礎研究内容については別機会にそれぞれ報告する.

11 当院で経験した肝細胞癌脳転移症例の検討

小林 雄司・上村 顕也・高橋 祥史
阿部 寛幸・熊木 大輔・水野 研一
竹内 学・田村 康・高村 昌昭
五十嵐正人・川合 弘一・山際 訓
須田 剛士・野本 実・青柳 豊
八木 琢也*・小林 真**
加藤 俊幸***

新潟大学医歯学総合病院
消化器内科
同 放射線科*
厚生連豊栄病院消化器内科**
県立がんセンター新潟病院
内科***

【背景・目的】肝細胞癌の脳転移は稀で, 予後不良である. 他臓器癌脳転移のエビデンスに基づき治療されているのが現状であり, 標準治療は確立されていない. 2004 年 1 月から 2013 年 12 月までの当院の肝細胞癌脳転移症例 6 例を検討した.

【成績】2 例は急性期に脳腫瘍出血で死亡した. 4 例で治療が行われた. 腫瘍摘出術単独が 2 例, 放射線治療単独が 1 例, 手術・放射線治療の併用が 1 例であり, それぞれ平均 5 ヶ月, 5 ヶ月, 16

ヶ月の生命予後が得られた.

【考察】肝細胞癌脳転移の治療は, ガイドライン上は放射線治療のみ推奨されている. 当院での症例では手術治療単独と放射線治療単独で同等の生命予後が得られた. 分子標的薬を含めた治療法の進歩によって肝内病変が制御可能となり, 今後は肝外病変の制御が問題になると思われる. 多発脳転移症例に対しても施行できる放射線治療は, 今後増加が予想される肝細胞癌脳転移症例の治療の選択肢として有力であると考え.

12 慢性腎臓病合併肝細胞癌の予後

木村 成宏・川合 弘一・佐野 知江
上村 博輝・兼藤 努・土屋 淳紀
上村 顕也・田村 康・高村 昌昭
五十嵐正人・山際 訓・須田 剛士
野本 実・青柳 豊

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器内科学分野

13 DDP-H 全肝動注は肝細胞癌の生存に貢献しうるか?

－ JISO - 1 細胞癌 Data より－

石川 達・阿部 聡司・井上 良介
菅野 智之・渡邊 雄介・岩永 明人
関 慶一・本間 照・吉田 俊明

済生会新潟第二病院消化器内科